

東京壘容器協同組合の概要と 「東京システム21」の取り組み

株式会社京福商店
代表取締役 笠井聡志

東京壘容器協同組合

- ▶ 3組合が合同して、昭和38（1963）年設立
- ▶ 酒販店、建場（たてば）等を回って、リターナブルびんの集荷、卸売
- ▶ 設立当時270社加盟
- ▶ 令和4年（2022年）1月現在 88社
- ▶ 現在は、それぞれ地元のリサイクル組合にも参加し、「自治体回収」（週1回「資源の日」に行われる、びん、缶、ペットボトル等の回収）に携わる加盟員も多く、収益の大きな柱となっている
- ▶ 経営が安定することで、結果的に「酒販店回収」が維持できている側面も
- ▶ 23区それぞれの自治体回収に「びん商」が参画できたことにより、家庭より排出されたリターナブルびんの集荷が可能に

「東京システム21」の取り組み

- ▶ 東京システム21とは・・・
- ▶ 酒販店回収、自治体回収の「両輪」で、質の良いリターナブルびんの回収を目指す取り組み
- ▶ 特に自治体回収においては、パッカー車による資源の混合回収ではなく、コンテナ等を用いたびん単独分別回収を維持するよう、各区に働きかけている
- ▶ 現在23区全てにおいて、コンテナ排出、もしくは袋出しによる、「びん単独分別回収」が行われている
- ▶ 処理施設に搬入されたびんは、最初に「リターナブルびん」のピックアップが行われ、その後、「白（透明）」「茶」「その他」の3色に分別され、カレットとして再利用されている
- ▶ 結果的に、「リターナブルびん」「カレット」とも、高品質が維持できている

株式会社京福商店

- ▶ 昭和26年（1951年）東京都大田区池上で創業 昨年70周年
- ▶ 現在は東京都大田区京浜島で操業 従業員数77名
- ▶ 自治体の資源回収・処理、酒販店回収、産廃系カレットの受け入れ
- ▶ 昭和・・・酒販店回収、建場の回収
- ▶ 昭和63年目黒区のびん分別回収モデル地区を担当
- ▶ 平成・・・自治体回収の発展
- ▶ 令和・・・ ???

よろしくお願ひします。